

富山県教育委員会教育長 殿

学 校 名 富山県立高岡南高等学校
校長氏名 出口 信夫

令和6年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、「学習活動と進路支援」、「学校生活」、「学校の活性化」、「SOUTH 探究プロジェクト」「人文科学コースの活動推進」の5領域で重点項目を決め、それぞれ達成目標を定めて取り組んだ。

(1) 学習活動と進路支援

面接指導については、学期当初、学期末を中心に丁寧に実施されている。面接の目的や内容、頻度に対してほとんどの生徒が満足している。授業への満足度も高く、課題の提出状況もよいが、実力テストや外部模試の成績がそれとは必ずしも相関関係にない部分に改善の余地があると感じている。

(2) 学校生活

教員が「させる」のではなく、生徒自らが考えて、自発的に「行う」指導を徹底できた。学校生活におけるスマートフォンやタブレット、服装のあり方について考えることが、自立心を育むことに結びついた。

(3) 学校活性化

生徒が主体的に学校行事を計画・参加できるように、教員は「自助への幫助」を心がけた。生徒相互のコミュニケーションから主体性を育ていけるまで、できるだけ見守ることを重視した。生徒は、合唱コンクール、体育大会、南高祭、創立50周年記念事業など大きな学校行事を実施していく中で、それぞれの行事で生徒がアイデアを出し合い、生徒一人ひとりが主体的に行動し、協働して参画する姿勢がはっきりと徐々に見られるようになった。

(4) SOUTH 探究プロジェクト

心の探究、アイデア提案型の探究、テーマ研究型の探究を学年が上がるにつれて順次学ぶことができるプログラムとなっている。地域のリーダー、世界で活躍する人材の輩出に寄与した。

(5) 人文科学コースの活動支援

授業「文化と情報」では、文系教科に興味関心を示す学校行事を実施し、将来の進路指導を見据えたものとなった。リモートにて、海外の高校生と「日本の社会問題」について、お互いに相手国の言語での発表と交流を行った。7月、12月、3月のセミナー活動を行い、生徒のアンケート回答や担当者からの評価も高く、生徒自身も自分の成長を感じることができる活動内容であった。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 学習活動と進路支援

学習と進路に関するアンケートを通して、生徒の実態把握を行い、生徒の学習活動がより効果のあるものになるよう検討と工夫を重ねていきたい。具体的には、実力テスト、外部模試の振り返りを定着させたい。それにより、本校が期待されている進学実績につなげられるようにしていきたい。

(2) 学校生活

南高生としての矜持をもち行動することで、将来に向けてのリーダー性を育成できるような工夫を模索していく。また、朝食を取るといった毎日の生活習慣を大切に、体の健康は心の健康に繋がることを意識させ、生徒自身が判断して健康に留意した学校生活を送れるように心掛ける。

(3) 学校活性化

主体的に行事の企画・運営に取り組む姿勢を執行部だけでなく、全生徒が執行部とともに行事の企画参加する方法を考えていく。また、図書に触れる機会がさらに増えるよう、工夫をしていきたい。

(4) SOUTH 探究プロジェクト

「SOUTH探究プロジェクト」では、「越境」と「共創」を意識させて、地域の中心となって活躍できる人材の育成をしていきたい。「データサイエンス」では、正しくデータを収集・分析し、周囲に惑わされない「人としての価値観」をもった行動を取るための方法を模索していきたい。

(5) 人文科学コースの活動支援

1年次から人文コース予定者の活動を取り入れることで、コースへの所属意識を意識させる。2年次からは外部との活動を増やしていくことで、コースの活動内容を充実させることができると考えられる。

「文化と情報」の授業では、データ分析に基づいた考察や発表ができる、加えて、根拠が明確で説得力のある説明ができる人材の育成を目指したい。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和6年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業を通じて学力伸長することを学校全体で共有し、生徒の志望と実態に即した学習活動となるよう工夫する。 ・面接週間を中心に、こまめに生徒との面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。 ・令和7年度新課程入試についての情報収集と分析に努める。
現 状	<p>本校生徒ほとんどが大学進学を志望している。中学までは与えられた課題にはまじめに取り組むことで好成績をあげてきた生徒が多いが、自らの進路について明確な目標を持っている生徒は多くない。今後の進路選択に際しては、生徒自身が主体的に自らの将来を見据えて、自己の適性・能力をしっかりと認識し、必要な事柄を選び取れる主体的な姿勢を育成しつつ、入試に対応できる学力を身につけていくことが必要である。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路意識向上のための面接指導を、各学年概ね6回以上実施する。 (2) 平日の家庭学習習慣を確立する。平日は1年生2時間、2年生3時間、3年生の6月以降4時間、休日は1年生5時間、2年生6時間、3年生は6月以降8時間を確保できるよう支援する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学期初めの面接週間に加え、定期考査や実力テスト、外部模試の成績を渡すタイミングなどに個人面談を行う。必要に応じて担任だけでなく、教科担当者なども含め面談を行っていく。 (2) 授業の予習・復習・週ごとの課題を中心とした学習習慣の確立を目指す。課題は、習熟度に応じた個別的な取り組みができるよう配慮しつつ、学年と教科が連携を図り、分量とレベルを設定する。 (3) 各学期末にアンケートを行い、達成度を検証する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導は、学期当初、学期末を中心に丁寧に行われている。学習状況や生活状況などについてもきめ細やかに話が交わされており、各学期末の生徒アンケート結果にも、面談の回数については約85%の生徒が満足しており、90%以上の生徒が、教員が親身にに応じてくれていると回答した。 ・学習活動について、授業への満足度はおおむね高く、課題の取り組み状況はよいが、復習や計画的な学習習慣の定着、疑問点の解決への取り組みなど各自で取り組む学習活動に改善の余地がある。
これまでの具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導については、学校年間行事計画に明記され、定着している。 ・1学期当初に進路志望アンケート、各学期末に学習と進路に関するアンケートを実施し、生徒の意識や取り組みの変化の把握に努めた。 ・進路指導室、進路資料室や進路学習室の環境整備を行い、進路情報の提供の仕方を工夫している。今後も学年と連携をとってさらに生徒、教員がさらに効果的に活用できるようにしていきたい。
評 価	<p>A</p> <p>受験環境の社会的変化に応じて変わりつつある生徒や保護者の進学に対する意識に柔軟に対応できるよう細やかな態勢作りを心がけた。今後も生徒の進路志望をしっかりと支えていきたい。</p>
学校関係者の意見	<p>働き方改革が行われている一方で、非常に多くの行事と学習指導が両立していることに感銘を受けている。</p> <p>地域唯一の高校であり、地域との関わりや伝統・校風を大切にしていきたい。</p>

次年度へ 向けての 課 題	学習と進路に関するアンケートで学年を通じて生徒の進路志望と実態を把握し、アンケート結果をしっかりと日々の活動に生かせる態勢作りを行う必要がある。生徒の取り組みがより効果のあるものになるよう、学校全体が効率的・効果的に指導に向かえる態勢を整え、本校が期待されている進学実績につなげられるようにしていきたい。
---------------------	--

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和6年度高岡南高校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	(1) 自己教育力を高め、自主自律の精神に満ちた品格ある集団の育成 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着。
現 状	(1) 規律ある行動として「挨拶の励行」「時間厳守」「身だしなみ」「公共の場でのマナー遵守」「スマートフォンの適切な利活用」を挙げている。今年度は特に、社会的なルール・マナーの意識の向上とマナー遵守の実践に主眼を置きたい。 (2) 健康的で活発な学校生活を送るためにも、基本的な生活習慣を確立する必要がある。そのためには朝食摂取の習慣の確立に向けて、改善すべき余地がある。
達成目標	(1) 社会的なルール・マナーを守り実践する。 90%以上 (2) 朝食を毎日とる習慣が身についている。 90%以上
方 策	(1) ①生徒校紀委員を中心に各クラスの「行動指針」策定し実践する。 ②「社会的なルール・マナー」についてアンケートを実施し、理解度を高め、実践していく生徒を増やしていく方策については、生徒間で策定したルールを守る形とし生徒の自主性を尊重する。 (3) 朝食を始めとした生活習慣の実態を把握し、朝食の重要性を機会を捉えて啓蒙するとともに、食習慣をはじめとして生活習慣を考えさせる機会を設ける。
達成度	(1) 12月24日社会的なルール・マナーについてのアンケート実施。 社会的なルール・マナーを守り実践する。 92% (2) 11月14日に保健統一ホームルームを実施。1年生に朝食・睡眠の重要性をテーマに講演会を開催した。朝食についてのアンケートを実施した結果、「朝食を必ず採る」と答えた生徒の割合は94%であった。
これまでの具体的な取り組み状況	(1) ・新入生オリエンテーションで「マナーセンスアップ教室」を実施 ・生徒校紀委員を中心に各クラスの「行動指針」策定。 (マナーについての意義・社会人としてのあり方について学ぶ) ・「スマートフォン等の利用等に関する調査」についてのアンケートを実施し共通理解度を高める。 ・ルールメイキング委員会開催。(インスタグラムの運用について) ・4月、9月に「マナーセンスアップ週間」実施。(PTA役員、生徒会) (2) ・保健だより等を通しての啓蒙活動。 ・総合病院勤務の栄養士を招いての講演会。
評価	A 生徒が自ら考え実践していく過程で、他を思いやる心や自立心を育むことに結びついた。
学校関係の意見	・生徒風紀委員を中心に各クラス・学年の「行動指針」を定めた上で、自らが考え実践する過程で他を思いやる心を育てたことは素晴らしい。 ・「マナーセンスアップ週間」等、年間を通して多彩な活動が取り組まれている。食習慣を基本とした生活リズムを保ちながら、高岡南生らしい品格の概念の共有と陶冶の実践に努めて頂き、地域住民のから評価されるような姿になれば素晴らしい。

次年度 向けの 課題	(1) 南高校生らしい品格の概念の共有。生徒相互間のふれあいを求め、共生の心や人として望ましい品格の陶冶に努める。 (2) 朝食を始めとした毎日の食生活を大切に、生徒自身が判断して健康に留意した学校生活を送れるように支援したい。
------------------	---

() 評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった

様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

		令和6年度高岡南高校アクションプラン - 3 -
重点項目	学校の活性化	
重点課題	(1) 行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 (2) 読書活動の推進 (3) ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進	
現状	(1) 学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 (2) 図書の出冊数は増加傾向にある。(生徒一人 R3 2.6冊、R4 3.8冊、R5 5.3冊) (3) 奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。	
達成目標	(1) 学校生活アンケートにおいて、学校生活に満足と答えた生徒の割合が80%以上。 (2) 図書の総貸出数が年間1900冊(生徒一人あたり4冊)以上を目指す。 (3) 生徒一人ひとりがボランティア活動に年間一回以上参加する。	
方策	(1) 生徒一人ひとりに対し、高校生活が創造力と主体性を発揮する絶好の機会であると捉えさせる。各行事ごとに振り返りの機会をもつように努め、併せて様々な場面で声かけと側面からサポートを心掛ける。 (2) ①学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。(朝読書用の書籍を図書館から継続して選んでもらう。朝読書に好適な書物の充実を図る。) ②授業や探究活動における図書館書籍の活用が推進されるよう支援する。 ③趣向を凝らしたPOPの作成や新着図書案内、校内掲示板の活用など広報活動に努める。 (3) ホームルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。	
達成度	(1) 生徒が主体となって計画し、合唱コンクール、体育大会、南高祭を実施した。立案までは試行錯誤しながら、準備を進めた。(事後、達成感を得た生徒 合唱コンクール97% 体育大会98% 南高祭99%) (2) 1月31日現在の総貸出数は、1,043冊(一人当たり2.1冊) (3) ホームルームの時間に戸出地域のボランティア活動を実施し、ボランティア委員も地域の方々と一緒に清掃ボランティア活動を行い、延べ約630名の生徒が参加した。また、地域行事にも多くの生徒が参加した。	
これまでの具体的な取り組み状況	(1) 生徒が主体的に学校行事を計画できるように、教員も一緒になって協力して進め、他者とのコミュニケーションの中で主体性を育ていけるよう指導にあたった。 (2) ・ブックフェアの実施(貸出冊数を増やす 貸出期間の延長) ・掲示板・展示スペースによる広報活動 (職員室横廊下 生徒玄関 校長室横) ・朝読書 1、2年生 ・谷川俊太郎フェアの開催 (3) ホームルーム計画の立案の段階で、ボランティア活動の実施を推奨し、計画に取り入れたり、各部に地域団体からの依頼を紹介したりした。	
評価	A	学校行事全般において、生徒一人ひとりが主体的に行動しようとする姿勢が見られた。

学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、主体的に合唱コンクール・体育大会・南高祭等の開催・運営に取り組む、事後の達成感も高率を示したことは、将来、学校生活でのよい思い出となるであろう。
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 主体的に行事の企画・運営に取り組む姿勢を執行部だけでなく、全生徒が執行部とともに行事の企画に参加する方法を考えていく必要がある。 (2) 学年の朝読書とのいっそうの連携を図り、図書に触れる機会がさらに増えるよう、工夫をしていきたい。

() 評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和6年度高岡南高校アクションプラン - 4 -	
重点項目	SOUTH探究プロジェクト
重点課題	「SOUTH探究プロジェクト」の充実発展を目指す。スクールポリシー「SOUTH」を実現するために、地域企業・自治体・大学・PTA等と連携し探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指す。また、探究的な活動を通して、将来の社会とのかかわり方の視野を広げ、生徒のキャリア教育に資する。
現状	「SOUTH探究プロジェクト」では、探究的な活動を行い、1学年では企業・行政と連携し地域課題をテーマに探究の手法を学ばせている。2学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待されている。学びに向かう姿勢や高みを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編・組織化し、伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。
達成目標	「SOUTH探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 80%以上
方策	「総合的な探究の時間」「理数探究」「HR」を活用して実施する。 ①1学年 課題の設定や情報活用能力など探究リテラシーを身につける。 ・イノベータープログラム(アントレプレナーシップ講座・グローバル講座)を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行う。 ・企業訪問「フィールド・スタディ」「インターンシップ」を実施する。デザイン思考を実践し、課題発見・課題解決方法について地域企業をテーマにして学ぶ。 ・地域探究・高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究し「課題設定力」「ロジカルシンキング」を学ぶ。また将来の社会とのかかわり方へと視野を広げる。 ②2学年 1年間を通して学術型探究活動を実施する。 ・大学連携講座Ⅱ(探究的な活動Ⅱ)・・・富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験する。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究力・自己発信力を身につけさせる。理系に於いては更に数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせる。 ③3学年 データサイエンス講座により、探究力を高める。 ④海外研修・大学実習(希望者研修)イノベータープログラムを实践する場としてアメリカ研修・大学実習(大阪大学・富山大学薬学部)を実施予定である。 ⑤プロジェクトの評価と改善を行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。
達成度	「SOUTH探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 91.5%

<p>これまでの具体的な取り組み状況</p>	<p>3つの探究を学ぶプログラム（心の探究・アイデア提案型・テーマ研究型）となっている。</p> <p>①1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベータープログラムを入学当初（4～7月）に実施し、マインドセットを行い、デザイン思考を身にけると共に、学びに向かう力や挑戦心を高めることができた。 ・企業訪問・・・29事業所を訪問し、地域企業への理解を深めた。課題発見・課題解決方法について地域企業をテーマにして学んだ。 ・地域探究・・・高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究した。課題を設定する力・ロジカルシンキングなどの探究リテラシーを身につけた。探究活動に対し自治体・企業・PTAなどから学習支援を受け、生徒は自分事と捉え内容を深めた。3月18日に発表会を実施した。 <p>②2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ）・・・富山大学と連携し、5月に大学訪問、8月・11月・2月に大学講師による報告会を実施した。3月18日にはポスターセッションによる、発表会を実施した。特に理系においては、「理数探究」として実施し、数学的・理科的な見方を通して、探究力・自己発信力を高めることができた。 <p>③3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な活動Ⅲ（データサイエンス講座）・・・富山大学と連携し、6月に発表会を実施した。具体的なデータを用いて説得力のある発表を行うことができた。 <p>④各種調査を実施し、プロジェクトの評価を実施していて、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかっている。</p> <p>⑤1・2年希望者研修として大学実習を実施。大阪大学外国語学部・富山大学薬学部に生徒を派遣し実習を実施した。（各実習は2日間）海外研修は35名がアメリカ合衆国シリコンバレーを訪問しアントレプレナーシップ研修・高校訪問・大学訪問・企業訪問を実施している。新しい価値観と革新的な技術に触れ、国際的なコミュニケーション力、国際的視野を身につけることができた。1月31日に保護者向けに報告会を実施した。</p>
<p>学校関係者の意見</p>	<p>1、2、3学年とも段階に応じたテーマを定め、企業・地域自治体・大学・PTA等と連携し、スクールポリシー「SOUTH」の実現に取り組まれていることに、また更に現状を踏まえ、系統的に再編し、生徒に伸ばしたい力を計画的に育成することの課題に取り組まれていることに対し、ますますの充実と効果を期待します。</p>
<p>次年度に向けての課題</p>	<p>「SOUTH探究プロジェクト」の推進について、「越境」「共創」をキーワードに地域と連携する土壌が育成された。令和4年度「模索」令和5年度「改善」令和6年度「深化」と充実することができた。課題として3点ある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題設定力」「ロジカルシンキング」について深く学ぶ ・生涯学び続けるための「探究力」を身につける ・連携先から課題提供をしていただきWIN-WINの関係へ <p>令和7年度は持続性のある体制・仕組みを構築し、「SOUTH」の精神を持った、挑戦心を持ったグローバルな人材を育成したい。</p>

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

	令和6年度高岡南高校アクションプラン - 5 -
重点項目	人文科学コースの活動推進
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業内容を学校全体で共有し、教科間や外部の教育機関との連携をとりながら、効果のある学習活動となるよう内容を充実していく。 (2) 体験学習を中心に専門的で特色のある学習や活動を取り入れ、国内だけでなく世界において、リーダーとして活躍できる総合的な能力を身に付けさせる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業と校外校内学習を連動して深め、生徒の能力を伸ばせるよう日程や内容を計画・工夫している。 (2) 授業「文化と情報」担当者が内容を計画し実施しているが、その内容が校内ではあまり周知されていない。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合が80%以上。 ・校内での授業やセミナーの参観者 のべ30人以上。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業「文化と情報」(2, 3学年) <2学年> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や校内学習での学びを参考に、自身の研究テーマを設定し、調べた内容を日本語や英語で表現する。また、その成果の発表を効果的に行うために、様々な技法やICT機器を利用する。 <3学年> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びを総合的に駆使し、自身の課題を発見し、データ分析をしながら解決策を導き出す。それをまとめて最終的には英語でプレゼンテーションする。そのため本校卒業生が協働活動支援員として生徒をサポートする。また、その成果の発表を効果的に行うために様々な技法やICT機器を利用する。 (2) 校外校内学習「セミナー」(1, 2学年) <ul style="list-style-type: none"> ①サマーセミナー、スプリングセミナー <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関や博物館などの施設で専門的な体験学習を行い、人文科学系の世界に触れ、興味のある分野の知識を深める。 ・人文・社会・国際系で活躍している人の経験談や専門的な話を聴き、ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。 ・探究活動やプレゼンテーションについて学ぶ。 ②ウインターセミナー <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生との意見交換や交流を通して情報発信力、プレゼンテーション能力を高める。また、規律ある態度、責任感、連帯感を培う。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合 100% ・校内での授業やセミナーの参観者 のべ103名 ・2, 3年ともに「自己理解」「社会/他者理解」「責任ある意思決定」が高い評価を得た(4以上/5点)。3年では特に「責任ある意思決定」、2年では「セルフマネジメント」に伸びが大きかった。 (EdvPath アセスメント3回実施)

<p>これまでの具体的な取り組み状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年授業「文化と情報」では前期は短歌バトルやビブリオバトル、ディスカッションを行った。後期は台湾高校生と互いの国の文化比較を行いプレゼンを行った。 ・3年生は5月にはシンガポール高校生と「日本の社会問題」について、お互いに相手国の言語でデータ分析中心の発表と交流を行い、視点の違いやプレゼン技術を学んだ。なお本校出身の大学生が6名サポートしてくれた。6月に台湾高校生が来校し交流した。2月からはサポート大学生が新しいメンバーで2年生をサポートし、来年度の5月の発表に向けて内容を深めている。 ・7月に1・2年生でサマーセミナーを行い、美術館や図書館など公共施設での学びを深めた。12月のウィンターセミナーでは2年生が3日間の外国留学生とのディスカッションを英語のみで行い。3月にはスプリングセミナーで国際交流員2名や立山博物館学芸員に講演していただく。 ・1年は人文予定者がそろった最初の活動として、三校合同課題研究発表会を見学し、他校の探究活動見学からプレゼンテーションを学んだ。3月にはスプリングセミナーで国際交流員2名や立山博物館学芸員に講演していただく。 	
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>生徒のアンケート回答や担当者からの評価は高評価であり、EdvPath アセスメントによる評価も上昇が見られた。生徒自身も自分の成長を感じることができる活動内容となった。</p>
<p>学校関係者の意見</p>	<p>これからも、もっと対外的なアピールを行って、人文科学コースをはじめ高岡南高校の人气が上がるように、情報を発信して欲しい。 人文科学コースは、各種行事をはじめ、学校行事に活気があり、十分に「楽しんで」高校生活を送れていると感じている。</p>	
<p>次年度へ向けての課題</p>	<p>1年のうちから人文コース予定者の活動を充実させることで、2年生からのコースの活動内容を高度にすることができると考えられる。また、3年生に今年度から加わった「文化と情報」の授業を実施した。データ分析を加えた考察や発表ができる、より説得力のある人材の育成を目指したプログラムを充実させていきたい。</p>	

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった